

2022年9月26日

相模原市長 本村 賢太郎 様

安倍晋三元首相「国葬」当日、本庁舎での半旗掲揚中止を求める緊急の申し入れ

日本共産党相模原市議団  
団長 松永 千賀子

安倍晋三元首相の「国葬」が実施される9月27日、本市が本庁舎において半旗を掲揚する方針であることが、新聞報道により明らかになった。

日本共産党市議団は9月1日の代表質問で国葬当日の市の対応を質し、市長は「現段階では、市民の方や教育現場に対して、半旗掲揚等の弔意を示す行為の要請を行うことは考えておりません」と答弁した。

それにも関わらず、本庁舎での半旗掲揚を決定したことは、市長がご自身の答弁を覆すということであると同時に、議会での答弁を軽視するものであり、強く抗議する。

そもそも、国葬の実施には法的根拠がなく、国民の思想・良心の自由を保障した日本国憲法第19条に違反している。

さらにこの間、国葬の実施に反対する国民の声が日増しに高まり、FNNの世論調査では、国葬に「賛成」は31.5%、「反対」は62.3%で、反対が賛成を大きく上回っている。

岸田首相は国葬を「故人に対する敬意と弔意を国全体としてあらわす儀式」と発言しており、国葬の実施は、国民の中でも評価が大きく分かれる安倍元首相を国家として全面的に公認・賛美することになる。

また、国・政府から半旗等を求める要請もない中、相模原市が本庁舎で半旗を掲揚することは、市として国葬の実施を容認し、安倍元首相に対して弔意と敬意を示すことになるうえ、市民や職員に対し、弔意を事実上強制することにつながり、到底認められない。

よって、9月27日の国葬当日に、本庁舎において半旗を掲揚することを中止するよう、強く求める。

あわせて、議会での答弁を覆し、半旗を掲揚することを決定した議論の経過を詳らかに明らかにすることを求める。

以上